

平成28年度
教育に関する事務の管理及び執行の
点検及び評価報告書

平成29年8月23日
長岡市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

1 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成28年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「長岡市教育振興基本計画」（平成28年4月策定）に掲げた施策を中心に行いました。

(2) 点検及び評価の手順

平成29年4月から8月にかけて、平成28年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



教育委員への点検内容の報告



事務評価委員会による点検及び評価



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表

長岡市教育委員会事務評価委員会 委員

委員長 結城 和廣（学校教育関係）

副委員長 青柳 良一（社会教育関係）

委員 江口 由美（学校教育関係）

委員 高野 真規（子育て支援関係）

【目 次】

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

| | | |
|----|-------------------------------|----|
| 1 | 教育委員会 4 月臨時会（平成28年 4 月 1 日開催） | 1 |
| 2 | 教育委員会 4 月定例会（平成28年 4 月22日開催） | 1 |
| 3 | 教育委員会 5 月定例会（平成28年 5 月31日開催） | 1 |
| 4 | 教育委員会 6 月定例会（平成28年 6 月29日開催） | 2 |
| 5 | 教育委員会 7 月定例会（平成28年 7 月19日開催） | 2 |
| 6 | 教育委員会 8 月定例会（平成28年 8 月24日開催） | 3 |
| 7 | 教育委員会 9 月定例会（平成28年 9 月30日開催） | 3 |
| 8 | 教育委員会10月定例会（平成28年10月24日開催） | 4 |
| 9 | 教育委員会11月臨時会（平成28年11月 9 日開催） | 4 |
| 10 | 教育委員会11月定例会（平成28年11月17日開催） | 5 |
| 11 | 教育委員会12月定例会（平成28年12月 5 日開催） | 5 |
| 12 | 教育委員会12月臨時会（平成28年12月27日開催） | 6 |
| 13 | 教育委員会 1 月定例会（平成29年 1 月24日開催） | 6 |
| 14 | 教育委員会 2 月定例会（平成29年 2 月14日開催） | 6 |
| 15 | 教育委員会 2 月臨時会（平成29年 2 月27日開催） | 7 |
| 16 | 教育委員会 3 月定例会（平成29年 3 月23日開催） | 7 |
| 17 | 施設訪問 | 9 |
| 18 | 教育委員会協議会 | 9 |
| ○ | 教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等 | 10 |

II 教育委員会における事務の点検・評価について

| | | |
|----|--|----|
| 1 | 郷土愛の醸成による人材の育成 | 11 |
| 1) | 郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（学校教育課） | 11 |
| 2) | 米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出 （教育総務課・中央図書館） | 11 |
| 3) | 縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（科学博物館） | 12 |
| 4) | 歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（科学博物館） | 12 |
| 5) | 豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成 （科学博物館） | 13 |
| 6) | 歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 （仮称）の整備（中央図書館） | 13 |
| 7) | 長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 （学校教育課） | 14 |
| 8) | 子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 （青少年育成課） | 14 |

| | | |
|-----|--|----|
| 2 | 子ども・子育て支援の充実 | 15 |
| 1) | 乳幼児や妊産婦への支援の充実（子ども家庭課） | 15 |
| 2) | 特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実 （学務課・子ども家庭課・保育課） | 15 |
| 3) | 子育て家庭への経済的支援の充実（学務課・保育課） | 17 |
| 4) | 多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり （子ども家庭課・保育課） | 18 |
| 5) | 保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保 （教育施設課・保育課） | 19 |
| 6) | 放課後の児童の預かりサービスの充実（青少年育成課） | 20 |
| 7) | 多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり（子ども家庭課） | 20 |
| 8) | 保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援 （子ども家庭課・青少年育成課） | 21 |
| 9) | これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実（子ども家庭課） | 22 |
| 3 | 質の高い教育の推進 | 23 |
| 1) | 熱中！感動！夢づくり教育の推進（学校教育課） | 23 |
| 2) | どの子にも分かる授業の実現（学務課・学校教育課） | 23 |
| 3) | 地域の力、市民の力を生かした教育の推進（学校教育課） | 25 |
| 4) | 「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実 （学校教育課） | 26 |
| 5) | 学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 （教育施設課） | 27 |
| 6) | 通学路における児童・生徒の安全確保（学校教育課） | 27 |
| 7) | 食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進 （学務課） | 28 |
| 8) | 子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実 （学校教育課） | 28 |
| 9) | 特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システムの充実（学校教育課） | 29 |
| 10) | 私学の振興と家庭の教育費負担軽減（学務課） | 30 |
| 4 | 生涯にわたるまなびの場の充実 | 30 |
| 1) | 市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備 （中央公民館・中央図書館・科学博物館） | 30 |
| 2) | 民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備（中央図書館） | 31 |
| 3) | 市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援（中央図書館） | 31 |
| ● | 教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について | 33 |

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

平成28年度に教育委員会定例会を12回、臨時会を4回開催した。その内、1回は教育委員会事務局以外の施設で開催した。70件の議案を審議し、協議報告事項は83件であった。また、施設訪問を9回実施し、17か所で授業参観・職員懇談・給食試食及び施設内視察を行った。さらに、教育委員会協議会を5回開催した。

審議の結果は、以下のとおりである。

1 教育委員会 4月臨時会

- 日 時 平成28年4月1日（金曜日）
午後1時30分から午後1時45分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 ・職務代理者の指定について
・議席の指定について

2 教育委員会 4月定例会

- 日 時 平成28年4月22日（金曜日）
午後4時から午後5時15分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

| | | |
|--------|--------------------|------|
| 議案第28号 | 長岡市教育振興基本計画の策定について | 原案決定 |
| 議案第29号 | 附属機関委員の委嘱について | 原案決定 |

- 協議報告事項 5件
 - ・平成27年度教育に関する事務の点検及び評価方針について
 - ・平成28年度教育委員の学校訪問について
 - ・平成28年度長岡市成人式について
 - ・平成27年度長岡市スポーツ推進審議会会議報告
 - ・平成28年度長岡市スポーツ振興事業計画について

3 教育委員会 5月定例会

- 日 時 平成28年5月31日（火曜日）
午後1時15分から午後2時13分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 3件

| | | |
|--------|---|------|
| 議案第30号 | 条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正） | 原案決定 |
| 議案第31号 | 条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正） | 原案決定 |
| 議案第32号 | 補正予算の要求について | 原案決定 |

- 協議報告事項 3件
 - ・平成28年度全国学力・学習状況調査問題 長岡市教育委員会分析概要について
 - ・平成28年度長岡市成人式について
 - ・長岡市保育体制強化事業費補助金交付要綱の制定について

4 教育委員会 6月定例会

- 日 時 平成28年6月29日（水曜日）
午後2時45分から午後4時5分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|--------|---------------|------|
| 議案第33号 | 附属機関委員の委嘱について | 原案決定 |
|--------|---------------|------|

- 協議報告事項 7件
 - ・6月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・教育委員会関係工事等の入札状況について
 - ・平成28年度熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」について
 - ・平成28年度熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾夢企画事業」について
 - ・第1回「子育てあんしんの避難所」検討プロジェクトの実施状況について
- 附属機関会議報告について
 - ・第1回社会教育委員会、公民館運営審議会報告
 - ・第1回栃尾美術館協議会報告

5 教育委員会 7月定例会

- 日 時 平成28年7月19日（火曜日）
午後2時45分から午後4時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

| | | |
|--------|-----------------------|------|
| 議案第34号 | 平成29年度使用教科用図書の採択について | 原案決定 |
| 議案第35号 | 長岡市保育園条例施行規則の一部改正について | 原案決定 |

○ 協議報告事項 3件

- ・平成27年度長岡市の児童生徒の問題行動等について
- ・まちぼん事業実施報告について
- ・平成28年度ポニー事業について

6 教育委員会 8月定例会

○ 日 時 平成28年 8月24日（水曜日）

午後 3時45分から午後 5時 5分まで

○ 場 所 教育委員会会議室

○ 傍聴人 0人

○ 議 事 6件

| | | |
|--------|-------------------------------------|--------------|
| 議案第36号 | 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第37号 | 平成27年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について | 原案決定 |
| 議案第38号 | 平成29年度使用教科用図書の採択（一部追加）について | 原案決定 |
| 議案第39号 | 補正予算の要求について | 原案決定 |
| 議案第40号 | 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について | 被表彰候補者全員適と決定 |
| 議案第41号 | 附属機関委員の委嘱について | 原案決定 |

○ 協議報告事項 8件

- ・就学援助事業の申請・認定状況について
- ・胃がんリスク検診（中学生）の実施状況について
- ・平成28年度全国学力・学習状況調査結果概況について
- ・長岡市特別の理由による任意予防接種費用助成金交付要綱の制定について

附属機関会議報告について

- ・第1回長岡市図書館協議会報告
- ・第1回長岡市水族博物館協議会報告
- ・第1回長岡市子ども・子育て会議報告
- ・第1回長岡市スポーツ推進審議会会議報告

7 教育委員会 9月定例会

○ 日 時 平成28年 9月30日（金曜日）

午後 2時45分から午後 3時40分まで

○ 場 所 教育委員会会議室

- 傍聴人 0人
- 議 事 2件

| | | |
|--------|---------------------------------------|--------------|
| 議案第42号 | 長岡市立学校通学区域規則の一部改正について (小国地域3小学校統合) | 原案決定 |
| 議案第43号 | 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について | 被表彰候補者全員適と決定 |

- 協議報告事項 6件
 - ・ 9月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 平成28年度親も育つ子育てセミナー「幼児期コース」実施報告について
 - ・ 長岡市放課後児童健全育成事業運営費補助金交付要綱の一部改正について
 - ・ B型肝炎ワクチンの定期接種化について
 - ・ 長岡市子育て支援員研修の実施について
 - ・ 附属機関会議報告について
 - ・ 第2回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告

8 教育委員会10月定例会

- 日 時 平成28年10月24日（月曜日）
午後2時30分から午後3時35分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|--------|-----------------------|-------------|
| 議案第44号 | 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について | 被表彰候補者を適と決定 |
|--------|-----------------------|-------------|

- 協議報告事項 5件
 - ・ 六日市地区2小学校統合に関する要望書について
 - ・ 平成28年度第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議会議報告について
 - ・ 火焰型土器の在英国日本大使館プレ展示、及び大英博物館での常設展示について
 - ・ 家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール審査会結果について
 - ・ パパ向けの子育て講座実施報告について

9 教育委員会11月臨時会

- 日 時 平成28年11月9日（水曜日）
午後1時30分から午後1時45分まで
- 場 所 教育委員会会議室

- 傍聴人 0人
- 議 事 3件

| | | |
|--------|------------------------------------|------|
| 議案第45号 | 学校統合及び条例改正の申出について（長岡市立学校設置条例の一部改正） | 原案決定 |
| 議案第46号 | 条例改正の申出について（長岡市学校使用条例の一部改正） | 原案決定 |
| 議案第47号 | 補正予算の要求について | 原案決定 |

10 教育委員会11月定例会

- 日 時 平成28年11月17日（木曜日）
午前10時40分から正午まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|--------|-------------|------|
| 議案第48号 | 補正予算の要求について | 原案決定 |
|--------|-------------|------|

- 協議報告事項 4件
 - ・平成29年度新規事業等について
 - ・平成28年度第2回長岡市子ども・子育て会議報告について
 - ・長岡市スポーツ推進計画（仮称）について
附属機関等会議報告について
 - ・第1回長岡市文化財保護審議会報告

11 教育委員会12月定例会

- 日 時 平成28年12月5日（月曜日）
午後1時30分から午後3時5分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|--------|-------------------|------|
| 議案第49号 | 平成29年度当初予算の要求について | 原案決定 |
|--------|-------------------|------|

- 協議報告事項 5件
 - ・「中野俣小学校を栃尾南小学校へ統合する要望書」について
 - ・「六日市地区2小学校統合に関する懇談会」実施報告について
 - ・長岡市災害復興文庫の活用に向けた取組について
 - ・「広めよう！市P連ルール啓発標語コンテスト」の実施について
附属機関会議報告について
 - ・長岡市公立学校通学区域審議会会議報告

12 教育委員会12月臨時会

- 日 時 平成28年12月27日（火曜日）
午前11時40分から午前11時55分まで
- 場 所 アオーレ東棟4階 第二応接室
- 傍聴人 0人
- 議 事 ・職務代理者の指名について
・議席の指定について

13 教育委員会1月定例会

- 日 時 平成29年1月24日（火曜日）
午後2時30分から午後3時45分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|-------|------------------------------|------|
| 議案第1号 | 学校統合及び長岡市学校設置条例等の一部改正の申出について | 原案決定 |
| 議案第2号 | 長岡市公民館条例の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第3号 | 長岡市保育園条例の一部改正について | 原案決定 |

- 協議報告事項 9件
 - ・12月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・平成29年度全国学力・学習状況調査の参加について
 - ・平成28年度長岡市の子どもたちの体力について
 - ・教育委員会から市長部局への事務委任について（兼社会教育委員・公民館運営審議会会議報告）
 - ・子育てあんしんの避難所関係者情報交換会について
 - ・思春期向け次代の親育成事業の実施報告について
 - ・保育士等のキャリアアップ構築のための人材交流等支援事業費補助金交付要綱の制定について
- 附属機関等会議報告について
 - ・第2回栃尾美術館協議会報告
 - ・馬高・三十稻場遺跡整備活用委員会報告

14 教育委員会2月定例会

- 日 時 平成29年2月14日（火曜日）
午後2時15分から午後3時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|-------|-------------|------|
| 議案第4号 | 補正予算の要求について | 原案決定 |
|-------|-------------|------|

- 協議報告事項 3件
 - ・平成29年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
 - ・「中野俣小学校統合に関する懇談会」実施報告について
 - ・長岡市におけるSNSトラブル防止の取組について

15 教育委員会 2月臨時会

- 日 時 平成29年2月27日（月曜日）
午後4時から午後5時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

| | | |
|-------|-------------------|------|
| 議案第5号 | 校長、教頭の人事異動の内申について | 原案決定 |
|-------|-------------------|------|

- 協議報告事項 1件
 - ・平成28年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について

16 教育委員会 3月定例会

- 日 時 平成29年3月23日（木曜日）
午後1時30分から午後4時まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 16件

| | | |
|--------|---|------|
| 議案第6号 | 専決処理について（職員人事について） | 原案承認 |
| 議案第7号 | 臨時代理について（表彰に関することについて） | 原案承認 |
| 議案第8号 | 平成29年度 長岡市学校教育の共通実践事項について | 原案決定 |
| 議案第9号 | 平成29年度 長岡市社会教育の基本方針について | 原案決定 |
| 議案第10号 | 長岡市教育委員会事務委任規則の制定について | 原案決定 |
| 議案第11号 | 長岡市教育委員会公印規則等の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第12号 | 長岡市公民館条例施行規則の廃止について | 原案決定 |
| 議案第13号 | 長岡市社会教育委員会運営規則の廃止について | 原案決定 |
| 議案第14号 | 長岡市教育委員会当直勤務規程及び長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第15号 | 長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第16号 | 長岡市教育委員会一般職非常勤職員の任用等に関する要綱の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第17号 | 長岡市教育委員会教育長の職務に専念する義務に関する特例についての規則の制定について | 原案決定 |

| | | |
|--------|-----------------------------|------|
| 議案第18号 | 長岡市立図書館運営規則の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第19号 | 長岡市子育ての駅条例施行規則の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第20号 | 長岡市放課後児童健全育成事業実施要綱の一部改正について | 原案決定 |
| 議案第21号 | 附属機関委員の委嘱について | 原案決定 |

○ 協議報告事項 24件

- ・長岡市スポーツ推進計画の答申について
- ・3月議会における教育委員会関係の質問事項について
- ・長岡市いじめ防止基本方針の一部改正について
- ・第2回熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告
- ・平成29年度米百俵のまち長岡「熱中！感動！夢づくり教育」の概要
- ・平成28年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
長岡市が制定する要綱の一部改正及び廃止について

【一部改正】

- ・長岡市立学校遠距離通学児童生徒通学支援及び通学費補助金の交付等に関する要綱
- ・長岡市私立幼稚園等障害児教育費補助金交付要綱
- ・長岡市私立幼稚園等運営費等補助金交付要綱
- ・長岡市私立幼稚園等預かり保育推進事業補助金交付要綱
- ・長岡市私立認可保育所等運営費補助金交付要綱
- ・長岡市私立認可保育所等延長保育促進事業補助金交付要綱
- ・長岡市保育体制強化事業費補助金交付要綱
- ・長岡市私立認可保育所等未満児保育事業費補助金交付要綱

【廃止】

- ・長岡市小国地域集落ふれあい人づくり事業補助金交付要綱
- ・「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」の各学校における取組について
- ・これから長岡で子育てをはじめママ・パパのためのクチコミノートについて
- ・平成29年度長岡市スポーツ振興事業計画について

附属機関等会議報告について

- ・第4回社会教育委員会、公民館運営審議会
- ・第2回長岡市図書館協議会
- ・第2回長岡市文化財保護審議会
- ・第2回長岡市水族博物館協議会
- ・第3回子ども・子育て会議
- ・第2回長岡市スポーツ推進審議会

17 施設訪問

○ 17か所を訪問

【内訳】 保育園 2、小学校 9、中学校 5、その他施設 1

- (1) 平成28年 5月31日（火曜日）
川崎保育園、日越保育園
- (2) 平成28年 6月29日（水曜日）
栃尾東小学校、中野俣小学校
- (3) 平成28年 7月19日（火曜日）
堤岡中学校、岡南中学校
- (4) 平成28年 8月24日（水曜日）
馬高縄文館
- (5) 平成28年 9月30日（金曜日）
与板小学校、与板中学校
- (6) 平成28年10月24日（月曜日）
福戸小学校、上川西小学校
- (7) 平成28年11月17日（木曜日）
川崎小学校、川崎東小学校
- (8) 平成29年 1月24日（火曜日）
北中学校、栖吉中学校
- (9) 平成29年 2月14日（火曜日）
柿小学校、前川小学校

18 教育委員会協議会

○ 5回開催

- (1) 平成28年 5月11日（水曜日）教育委員会会議室
・ SNS利用のリスクについて
- (2) 平成28年 6月29日（水曜日）教育委員会会議室
・ 小国小学校の開校に向けて（準備状況の報告）
- (3) 平成28年10月13日（木曜日）教育委員会会議室
・ 長岡市における SNSトラブル防止の取組について
・ 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果分析について
- (4) 平成29年 1月12日（木曜日）教育委員会会議室
・ 「米百俵のまち長岡 教育大綱」について
・ 長岡市の人権・同和教育について
- (5) 平成29年 2月14日（火曜日）教育委員会会議室
・ 長岡市におけるいじめ及び不登校の現状について

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等＞

- 平成28年度から新たな教育委員会制度に移行し、新教育長のもと定例会及び臨時会の会議を適正に開催した。
- 会議において、教育や子育て支援に関する新制度の概要や児童生徒の現況を速やかに報告するなど、教育委員と教育委員会事務局の情報共有を進め、審議の活性化に努めた。会議では、議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言があり、十分な審議がなされた。
- 会議録はホームページで公開しており、協議報告事項なども詳しく掲載し、審議の透明性を高めている。
- 教育委員の意見を教育行政により反映させるため、教育委員会協議会を開催した。協議会では、テーマ別に活発な意見交換を行い、各課の施策立案に反映した。
- 各委員が成人式や表彰式などの教育委員会行事、各課の実施事業、学校の周年行事に積極的に出席したり、研修会に参加したりした。
- 学校訪問では、生徒指導や学力など学校運営上の課題を詳細に聞き取り、現場の状況を把握することに努めた。
- 学校訪問の意見交換では、より良い学校づくりに向け、訪問校ごとに教育活動の目標や課題をテーマとして設定し、より深い議論ができるようにした。
- 平成27年に策定した教育大綱などの基本理念・基本方針を踏まえ、これからの長岡市における具体的な教育・子育て支援施策の指針となる長岡市教育振興基本計画を策定した。今後はこの計画を基に、教育と子育て支援の一貫した施策をさらに推進していく。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

平成28年4月に策定した「長岡市教育振興基本計画」に定めた施策を中心に点検・評価を行った。

具体的には、各章ごとの「施策の内容」について、平成28年度における取組内容等を点検・評価したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

1 郷土愛の醸成による人材の育成

1) 郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（担当：学校教育課）

<平成28年度の取組>

○郷土長岡を語る「ながおか学」の冊子を小学校5年生全員に配布するとともに、各校が実践している有効な活用方法を全小学校に紹介して取組を推進した。また、教職員向けの研修の際に、地域の人材・歴史・文化・施設を取り上げるなどして、教職員が長岡に関する理解を深めることが出来るように支援した。

○学校・子どもかがやき塾夢企画事業等を活用し、学校、家庭、地域、NPO等が連携し、子どもの継続的な体験活動の場の充実に努め、ふるさとへの愛着と誇りを育む教育活動に全校が取り組んだ。

<成果及び今後の取組等>

○各学校が創意・工夫を凝らし、地域の特色や伝統文化等について学ぶ機会を設定し、保護者や地域、NPO等と連携し、学習活動の充実に図った。

○保護者や地域の方を招いた発表会や市内外への発信活動を通して表現力や自信を高めるとともに、ふるさとのよさや魅力を再発見しながら愛着や誇りを育んだ。

○平成29年度に冊子「ながおか学」の改訂を行い、「ふるさと学習」に対応した資料として内容の充実に図る。

2) 米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出

（担当：教育総務課・中央図書館）

<平成28年度の取組>

○次世代に米百俵の精神を伝承するため、(公財)長岡市米百俵財団との連携により、市内小学校を対象に米百俵読本やDVDアニメなどを活用した普及・啓発活動を行った。

○米百俵の精神を全国に発信する拠点の整備に向け、まちなか図書館基本構想検討ワーキングで必要な機能などについて意見交換を行った。

<成果及び今後の取組等>

○読本やDVDを授業等で活用した学校からは、「子どもたちは興味をもって読んでいた。」「子どもたちにとってわかりやすい内容だった。」「歴史的にと

ても理解を深めることができた。」等の評価を受けた。今後も継続的に授業等での活用を呼びかけていく。

- まちなか図書館の基本的な考え方について検討した。今後は複合施設の導入機能としての図書館の在り方を考える中で、米百俵の精神の伝承・発信の方策を検討していく。

3) 縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（担当：科学博物館）

＜平成28年度の取組＞

- 大英博物館に市内の遺跡から出土した火焰型土器等の貸出しを行い、常設展示を開始した（10月14日～）。また、それに関連した記念講演会（英国および長岡で計2回）やレセプション等を、在英国日本大使館で実施した。
- 平成28年は火焰土器発見80周年に当たるため、記念グッズ（缶バッジ、土偶チケット）の作成と馬高遺跡に関連した特別展や講演会を実施し、市内外への情報発信に努めた。
- 馬高・三十稲場遺跡の野外博物館としての機能を強化するため、環境整備の方法などについて検討を行った。
- 寄贈を受けた縄文関連図書の選別や目録作成などを行い、活用に向けた準備を進めた。

＜成果及び今後の取組等＞

- 世界中から年間600万人が訪れる大英博物館との展示を通じた交流により、長岡の火焰型土器や縄文遺跡を世界に向けて発信することができた。今後も、長岡の歴史的遺産である火焰土器や縄文遺跡をシティプロモーションのツールと位置づけ、国内外に向けた発信を強化していく。

4) 歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（担当：科学博物館）

＜平成28年度の取組＞

- 平成19年度から実施してきた支所地域における歴史的建造物の悉皆調査および詳細調査の集大成として、調査データをまとめた調査報告書を刊行した。（長岡地域は平成13～14年度に調査、14年度に報告書刊行）
- 12月3日に山古志仕事唄伝承会ほか8団体による郷土民俗芸能公演会をアオーレ長岡で開催し、134人の来場者があった。

＜成果及び今後の取組等＞

- 今後は、調査報告書にまとめた支所地域における歴史的建造物の調査データを活用し、登録有形文化財への登録を推進することで、歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用の促進に努めたい。
- 今後も、公演会などを通じて、多くの市民に民俗芸能の魅力や継承・保存の大切さを伝えていきたい。

5) 豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成（担当：科学博物館）

＜平成28年度の取組＞

- 科学博物館において、バードウィーク特別展「この鳥を守ろう—長岡の希少鳥類と天然記念物の鳥たち—」、「発掘された！古代の長岡」、長谷川邸再建300年記念特別展「歌麿と晴湖」等様々な分野の特別展や講演会を開催し、市民が博物館等に足を運ぶ機会を提供した。（入館者延べ29,420人）
- 年間を通じて、科学博物館や馬高縄文館・寺泊水族博物館などで、市民を対象とした普及活動を行ったほか、小・中学校等に学芸員を派遣する事業を企画し、多くの学校から活用された。また、「バスで行く科博見学・体験学習」を実施し、小・中学生の学習機会を増やすことに努めた。（普及活動等参加者延べ8,560人）

＜成果及び今後の取組等＞

- 科学博物館では、平成28年度に入館者、資料照会、普及活動等を併せて約39,200人の利用者があった。今後も体験学習会の機会を増やし、時宜に応じた特別展や講演会の開催を継続することで、市民が博物館を気軽に利用する機会を増やす。
- 科学博物館等が企画した公演会や企画展・特別展や各種普及活動により、多くの市民に対し長岡の自然・歴史・文化に触れる機会を提供することができた。今後は、科学博物館のHPなどを活用して、学校や子ども会などに体験学習等の事業について情報発信に努めることで、さらなる利用の促進につなげたい。

6) 歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館（仮称）の整備（担当：中央図書館）

＜平成28年度の取組＞

- 『長岡市史双書No.56』を刊行するとともに、郷土長岡に関する歴史資料を活用して、「古文書のいろは」、「古文書に見る長岡のすがた」など歴史講座を13回開催した。
- 長岡市災害復興文庫の運営・充実に向け、国立国会図書館のデータベース（東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」）に東日本大震災の写真資料を約130点掲載したほか、市民協働で歴史資料の保存に取り組んできた長岡市資料整理ボランティアと十日町市のボランティアとの10回目の交流会、災害復興文庫展2017「長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」、第18回図書館総合展へのブース出展などを開催・実施した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 年間を通じて歴史資料の整理・保存・公開の取組を進め、目録作成が終了した歴史資料約7,500点を新たに公開した。
- 歴史資料整理等に延べ198人の長岡市資料整理ボランティアが参加し、市民協働の取組がより一層図られた。

○神奈川県横浜市で開催された第18回図書館総合展に初出展し、長岡市災害復興文庫事業の意義をアピールした。引き続き全国の関係機関・団体と連携して、災害復興文庫の充実・発信に努めていく。また、文書館（仮称）の整備に向けて検討を進めていく。

7) 長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 (担当：学校教育課)

<平成28年度の取組>

○冊子「ながおか学」配布時に、平和学習での活用例を全小学校に紹介した。教職員向けの研修に平和教育を位置付け、長岡空襲についての理解を深めたり、戦災資料館の活用を呼びかけたりした。

<成果及び今後の取組等>

○戦災資料館の見学や平和劇の発表など、学校ごとに工夫した取組が行われた。今後も、児童生徒及び教職員への周知を継続する。

8) 子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 (担当：青少年育成課)

<平成28年度の取組>

○小学生リーダー養成事業として、寺泊地域でのサマーキャンプに78人の小学生が参加するとともに、スタッフとして中高生リーダーが参加した。また、青少年の健全育成を目的に組織されている団体に補助金を支給した。さらに、市内32地域の青少年育成団体の各活動に対し活動報奨金を支給した。

○高校生に対するボランティア講座を開催し、10人が参加した。ボランティアについての学習の場や施設訪問活動、活動実践者との交流等を通じて、社会参加の大切さを学ぶ機会を提供した。

<成果及び今後の取組等>

○地域間・世代間交流を通じて、小・中・高校生など各世代のリーダーを養成した。また、団体への補助金や活動報奨金の支給により、市全域及び各地域における青少年育成活動の更なる発展に寄与した。今後も、地域の青少年育成団体等と連携しながら、事業の拡充を図る。

○ボランティア講座の受講により、高校生が児童館への訪問など実際のボランティア活動の実践等を通じて充実感や達成感を感じることで、高校生のボランティアに対する意識の更なる醸成につながり社会参加の足がかりとなった。

2 子ども・子育て支援の充実

1) 乳幼児や妊産婦への支援の充実(担当: 子ども家庭課)

<平成28年度の取組>

○産後ケアコーディネーターを2人配置し、産前産後のサポートをきめ細かく実施した。

- ・産後デイケアるーむ「ままりら」 435回実施 延べ1,463人利用
- ・「ままのまカフェ」 169回実施 延べ1,712人利用
- ・産後ケア訪問 実人員6人 18回
- ・産前産後寄り添い支援訪問 実人員8人 152回

○健康の保持増進のため、妊婦健康診査、4・10か月健診、1歳6か月児健診、3歳児健診、子どもの定期予防接種を行った。

○身近な地域において、母子保健推進員が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実施した。

- ・妊婦、赤ちゃん訪問活動 3,716件
- ・子育て支援活動 308回 親子3,148組 妊婦7人 その他116人

○紙芝居やパンフレットを使って、「ままのまカフェ」や赤ちゃん訪問時に、スマホに子守りをさせないことなど、正しいメディアとの接し方についての啓発に努めた。

<成果及び今後の取組等>

○妊娠中や出産後早期から必要な支援を提供することで、母体の健康面の不安や育児・発育に関する悩みや不安が軽減された。

○ほとんどの妊婦が健診受診し、安心・安全な出産につながった。

○母子保健推進員と一緒に事業を実施したことで、母子保健推進員がやりがいを持ち、期待されていると感じて意欲的に子育て支援に取り組むようになり、地域全体で子育てを応援しようという意識が広がっている。

○赤ちゃんのあやし方やおんぶや抱っこの仕方など、具体的な育児方法がわからず悩んでいる産婦も多いことがわかり、育児力を育むため、平成29年度から産後デイケアるーむ「ままナビ」を開設する。今後も、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施していく。

○心が育まれる乳幼児期は話し掛けや触れ合いが重要であるため、今後もメディアとの接し方について啓発活動を実施していく。

2) 特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実

(担当: 学務課・子ども家庭課・保育課)

<平成28年度の取組>

○柿が丘学園において、通所による児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業及び障害児相談支援事業等を行った。(子ども家庭課)

- ・児童発達支援事業: 契約児童数 67人 利用延数 4,082人

- ・保育所等訪問支援：契約児童数 10人 訪問延数 43件
- ・障害児相談支援：相談契約数 72人 計画作成 38件
モニタリング 167件

○特別な支援が必要な乳幼児の発達に関する不安や悩みごとに応じるため、「こども発達相談室」を運営し、保育士や言語聴覚士等が対応した。(子ども家庭課)

- ・電話・来室相談 実件数 545件

○家庭児童相談員等が、乳幼児健診や子育ての駅等に出向いて相談を受けたり、子育てに不安を抱える母親同士のグループ支援活動を行ったりするなど、相談しやすい環境づくりに努めた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会の関係機関が連携して、支援が必要な子どもや保護者に対し、適切な対応を行った。(子ども家庭課)

- ・相談対応(新規相談のみ) 実件数 343件(うち児童虐待92件)

○保育園・幼稚園・認定こども園等に在籍している特別な支援が必要な子どもに対する訪問支援「すこやか応援事業」を実施し、在籍園とその保護者に対する支援を行った。(子ども家庭課)

支援児童数 157人 支援施設数 58園 支援延数 280件

○就学前から就学後まで継続した児童支援のための「すこやかファイル」作成を支援した。(子ども家庭課)

作成児童数(全年齢) 58人 就学期引継児童数 61人

○発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保健師・関係職員のほか、在園児の保護者(児の障害の有無に関わらず)にも対象を拡大した研修会を実施した。(子ども家庭課)

- ・7月9日(土) 参加者(支援者・保護者) 322人
- ・11月5日(土) 参加者(支援者) 159人

○特別支援学級への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学務課)

- ・支給総額 17,619千円

○配慮を要する児童を含む集団保育をより安全で良質なものにするため、配慮を要する児童の見守り等を行う保育補助職員を配置した施設に対し、人件費の一部を補助する保育体制強化事業を実施した。(保育課)

事業実施園 9園 補助金総額 6,116千円

<成果及び今後の取組等>

○「こども発達相談室」での相談件数が年々増加する中で、関係機関と連携しながら対応することができた。今後も連携を強化しながら、保護者に寄り添った支援の充実を図りたい。(子ども家庭課)

○家庭児童相談室の運営においては、子育ての駅や産後デイケアルーム・ままりラと連携しながら、相談しやすい環境づくりを進めることができた。また、

長岡市要保護児童対策地域協議会では、家庭の抱える様々な問題の多様化・複雑化に適切に対応していくため、地域の関係機関との連携によるネットワークづくりを推進していく。(子ども家庭課)

- 「こどもすこやか応援チーム」による訪問支援を実施し、園や保護者に対して、子どもの特性や困り感についての理解促進と具体的な対応について相談したことで、よりよい成長を促すことができた。(子ども家庭課)
- 「すこやかファイル」の主旨や有用性が小学校にも浸透したことで、ファイルの引き継ぎがスムーズになり、子どもと保護者の学校生活への不安が軽減された。今後も「すこやかファイル」の活用を関係機関と進めていく。(子ども家庭課)
- 支援者と保護者が対象の研修会は、保護者の参加が増加した。当事者の保護者だけでなく、その他の保護者にも参加を促すよう広報し、「心のバリアフリー」を促進していく。(子ども家庭課)
- 今後も、特別支援学級への就学において、保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行う。(学務課)
- 保育体制強化事業を実施することで、安全・安心な保育を実施することができた。今後も、安全・安心な保育を進めるため、配慮を要する児童の受け入れを支援する事業を行っていく。(保育課)

3) 子育て家庭への経済的支援の充実(担当:学務課・保育課)

<平成28年度の取組>

- 小・中学校への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、ひとり親家庭等の受給対象者を拡大して就学援助費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学務課)
 - ・支給総額 294,181千円
- 認定を受けた児童の保育料等を平成27年度から5%軽減し、国が示す保育料基準額に対し約35%軽減して保護者の経済的負担軽減を図った。(保育課)
 - ・国が示す保育料 約29億2,000万円
 - ・市の保育料 約18億9,000万円
 - ・保育料軽減額 約10億3,000万円(軽減率 約35%)
- 新制度に移行していない私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて授業料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。(保育課)
 - ①私立幼稚園就園奨励費補助金(入園児に対する支給割合87.3%)
 - 支給対象者 192人 補助金総額 25,918千円
 - ②私立幼稚園就園費助成金(市単独助成分)
 - 支給対象者 185人 補助金総額 3,978千円

<成果及び今後の取組等>

- 平成28年度から就学援助費の受給対象者を拡大したことで、ひとり親家庭等の保護者の経済的な負担をより軽減することができた。今後も小・中学校就学における保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行っていく。(学務課)
- 保育料を平成27年度からさらに5%減額することで、保護者の経済的な負担をより軽減することができた。今後も国が示す保育料基準額に対し軽減を行い、保護者の経済的負担の軽減を図っていく。(保育課)
- 幼稚園授業料及び入園料の一部を国と市が補助することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。今後も、保護者の経済的支援を行っていく。(保育課)

4) 多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり

(担当：子ども家庭課・保育課)

<平成28年度の取組>

- 仕事と育児の両立を支援するため、ファミリー・サポート・センターを運営した。(子ども家庭課)
 - ・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 3,781件
- 企業との連携により、従業員を対象とした出前子育て講座を実施した。ノウハウのあるNPO法人との協働で、子どもへの効果的な声かけ方法をわかりやすく伝えるとともに、長岡市の子育て支援策のPRも併せて行った。(子ども家庭課)
 - ・出前子育て講座受講者 40人
- 新たな保育の担い手確保と保育補助者の資質向上のため、子育て支援員を認定する研修会を、6月及び10月の年2回開催した。(保育課)
 - ・6月受講者 「地域保育コース」 97人
 - ・10月受講者 「地域保育コース」 108人
 - 「地域子育て支援コース」 16人

<成果及び今後の取組等>

- ファミリー・サポート・センター事業を広く周知するため、交流会や講演会を実施した。今後も、登録会員の拡大や事業の充実を図るため、支所地域での交流会を継続し制度のPRに努める。(子ども家庭課)
- 出前子育て講座の受講者へのアンケートでは、「この講座で聞いたことを、実際に家庭でやってみたい」という回答をほぼ全員からもらった。具体的でわかりやすい講座内容にしたことで、受講者に伝わりやすい効果的な講座とすることができた。また、市の様々な子育て支援策についてPRすることができた。(子ども家庭課)
- 総受講者221人のうち、203人が子育て支援員として認定された。また、小規模保育施設(B型)等に子育て支援員を配置し、小規模保育施設(B型)5

園で計79人の受入れ増加が図られた。今後も子育て支援員を増やしていくとともに、認定された子育て支援員に対して「フォローアップ研修」等を実施することで、資質の向上を図っていく。また、子育て支援員認定者のうち、就労予定者やその他勤務者に対して保育園等での雇用を促していく。(保育課)

5) 保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保

(担当：教育施設課・保育課)

<平成28年度の取組>

- 安全・安心な保育環境を整えるため、中之島保育園の外壁等改修工事を行った。(教育施設課)
- 快適な保育環境の整備を推進するため、宮内・中沢・山本・三和・中貫の各保育園の3歳児保育室に冷房設備を整備した。(教育施設課)
- 私立保育園の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・東谷保育園の大規模改修
 - ・太陽ゆうゆう保育園の大規模改修
 - ・新保保育園の改修
 - ・善昌寺保育園の改修
- 認定こども園の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・鵬幼稚園の大規模改修
 - ・太陽幼稚園おひさま保育園の改修
- 小規模保育施設の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・花園みどり保育園の創設
 - ・まちの保育園びゅあの創設
 - ・マンマのお部屋 e s t の創設
- 保護者の子育てと就労との両立を支援するために各種特別保育を実施した。(保育課)
 - ・病児・病後児保育 5か所 1,430人
 - ・休日保育 4か所 772人
 - ・一時保育 31か所 6,298人
 - ・障害児保育 20か所 36人
- 子育て中の保護者に保育園を開放し、育児相談や子育てに関する情報提供等を行う子育て支援センター事業を継続して実施した。(保育課)
 - ・子育て支援センター開設園 25か所 延べ利用者数 61,345人
- 保育士確保のために、雇用する保育士の宿舎を法人等が借り上げた費用の一部を補助する保育士宿舎借り上げ支援事業や保育実習受入れなどに必要な費用の一部を補助する保育士等の人材交流等支援事業を実施した。(保育課)
 - ・宿舎借上げ 1園 補助金総額 360,000円
 - ・人材交流 4園 補助金総額 58,000円

＜成果及び今後の取組等＞

- 老朽施設等を整備し、安全・安心で快適な保育環境を整えることができ、保育園定員も80人増加した。今後も適切な整備を行い、保育環境の整備を推進していく。(教育施設課・保育課)
- 各種特別保育事業を実施することで、安心して子育てができる環境を整備することができた。(保育課)
- 今後も事業効果を検討しながら保育士確保に関する各種事業を実施し、保育人材の確保に継続して努める。(保育課)

6) 放課後の児童の預かりサービスの充実(担当: 青少年育成課)

＜平成28年度の取組＞

- 保護者の就労などで、留守家庭の小学生を対象に、保護者が迎えに来るまでの間、預かり見守る児童クラブを48クラブ開設し、延べ370,487人、1クラブ1日平均27人が利用した。また、放課後発達支援コーディネーターを配置し、配慮を要する児童への対応について、児童厚生員へ助言・指導を行った。
- 平成28年度から、保護者の勤務実態、通勤事情等のやむを得ない事情がある場合には、開設時間の延長を有料で実施し、延べ37,899人が利用した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 児童クラブを開設することで、児童が安心して過ごせる遊び場や生活の場を提供するとともに、子ども同士の交流や活動を通して健全育成を図ることができた。今後も、児童クラブの運営の充実に努める。

7) 多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり(担当: 子ども家庭課)

＜平成28年度の取組＞

- 子育て支援の輪が広がっていくように、子育ての駅において、多世代が交流する事業を実施した。また、支所地域の子育て支援機能を強化するため、和島、与板、川口地域に地域版子育ての駅を開設した。
- 「子育ての駅運営委員会」を年6回開催し、子育ての駅の運営について改善点を検討したほか、運営委員が主体となり、子育てデビュー、子育ての駅デビューする人に向けた情報発信として子育ての駅のチラシを作成した。
- ファミリー・サポート・センターを運営し、地域全体で子育てを支え合う体制の充実に努めた。
 - ・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 3,781件

＜成果及び今後の取組等＞

- 全地域に子育ての駅が開設となり、平成28年度の来場者数は、296,905人となった(平成27年度は272,982人)。今後も、子育てしやすい環境づくりとして、多世代が交流する場を提供するとともに、利用しやすい施設の運営を行っていく。

| | | | |
|-----------------|----------|---------------|--------|
| ①ちびっこ広場（長岡地域） | 45,238人 | ⑧たんぼぼ（小国地域） | 1,933人 |
| ②てくてく（長岡地域） | 146,714人 | ⑨わくわく（和島地域） | 4,323人 |
| ③ぐんぐん（長岡地域） | 60,463人 | ⑩にこにこ（寺泊地域） | 3,267人 |
| ④なかのんひろば（中之島地域） | 2,940人 | ⑪すくすく（栃尾地域） | 9,546人 |
| ⑤のびのび（越路地域） | 5,336人 | ⑫にじの子広場（与板地域） | 4,786人 |
| ⑥もりもり（三島地域） | 6,681人 | ⑬すこやか（川口地域） | 5,058人 |
| ⑦やまっこ（山古志地域） | 620人 | | |

○子育ての駅の運営にあたっては、利用者による「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、様々な年代の市民から「子育ての駅サポーター」として協力を得るなど、市民参加型の施設運営が実現できた。今後も、子育て支援団体や市民と協働・連携した子育ての駅の運営の充実に努める。

○会員の養成講習会を実施し、ファミリー・サポート・センター事業の充実を図った。今後も、事業を充実し支援体制の強化を図るとともに、登録会員の増加と利用の促進を図る。

8) 保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援

（担当：子ども家庭課・青少年育成課）

＜平成28年度の取組＞

○小学校就学前の子どもを持つすべての保護者に、家庭教育等に関する基本的な事項を伝えるため、就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用し、指導主事等による「就学時家庭教育講座」を希望する学校すべてに実施した（全59校中55校）。また、平成28年度はSNSやゲームを利用する際の注意事項についても周知した。（青少年育成課）

○「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を推進するため、「お手伝い通信」を年4回発行し、すべての小学校、中学校、保育園、幼稚園の児童・生徒の保護者に配布した。また、小・中学生を対象に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」を実施し、252点の応募があった。運動の推進週間には、審査会で選考した42点をさいわいプラザやアオーレ長岡で展示した。（青少年育成課）

○幼児、小・中学生の子を持つ親が、様々な子育ての課題にどう対応するかを学ぶ「親も育つ子育てセミナー」を3コース21講座を開催し、延べ518人が受講した。（青少年育成課）

○参加者同士の話し合いと交流の中で自分にあった子育て方法を見つけていく「NPプログラム講座」を実施した。平成28年度は、母親向け講座に加え、父親向け講座を平日夜間に実施した。その他に、子育ての具体的なスキルを学ぶ「子どもとの上手なコミュニケーション講座」や、「思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座」などを実施した。（子ども家庭課）

子育て講座参加者 延人数 205人

・母親向けNPプログラム講座 69人

- ・父親向けNPプログラム講座 28人
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座 44人
- ・思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座 64人

○子ども達にSNSの危険性や望ましい使用方法を教えるため、長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会等と連携しながら、各種啓発活動に取り組んだ。(青少年育成課)

＜成果及び今後の取組等＞

- 「就学時家庭教育講座」を実施することで、家庭教育の基本的な事項、学校との関わり、SNS等に関する注意事項などについて、保護者の理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会を利用し、保護者の意識啓発を図る。(青少年育成課)
- 「お手伝い通信」を定期的に発行したり、ポスターコンクールを実施したりすることで、子どもが家庭で決められた仕事や手伝いを継続的に実施することの有用性や必要性について広く周知することができた。今後も、親の意識啓発を図るとともに、家庭における子どもの望ましい成長を応援していく。(青少年育成課)
- 「親も育つ子育てセミナー」は特に幼児期の人気が高く、早々に申し込みが定員に達した。また、約4割の受講者が児童・思春期も続けて受講し、継続的な学びの場を提供できた。平成29年度は、ニーズの高い専門的な内容を充実させると共に、働く父親の参加を促すため、土曜開催の回を設ける。(青少年育成課)
- 「NPプログラム講座」等は、いずれもアンケートの回答内容から参加者の満足度が感じられる結果が得られた。今後も、子育て不安や育児の悩み解消に繋がられるよう、ニーズを把握しながら事業の充実を図っていく。(子ども家庭課)
- 家庭でのSNS利用時のルール等を周知することができた。今後も、PTA等と連携しながら、各種啓発活動に取り組む。(青少年育成課)

9) これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実(担当：子ども家庭課)

＜平成28年度の取組＞

○中学生を対象に、乳幼児や親子とのふれあい等を通じて命の大切さや子育てについて学びながら、自尊心や自己肯定感を育むとともに、やがて自身も大人となり自立していくという意識の醸成を図る「思春期向け次代の親育成事業」を実施した。

- ・中学校1年生 1校2クラス 47人参加
- ・中学校3年生 5校15クラス 504人参加

＜成果及び今後の取組等＞

○事業実施前と実施後のアンケートにより、「幼い子への愛おしさや命の大切さ

を感じる事ができた」と答えた割合が5.1%、「自分は大切な存在だと思う」と答えた割合が4.8%上昇し、事業実施の効果を図ることができた。今後も、なるべく多くの生徒が体験できるよう事業の充実を図っていく。

3 質の高い教育の推進

1) 熱中！感動！夢づくり教育の推進（担当：学校教育課）

＜平成28年度の取組＞

○平成28年度も、「どの子にも分かる授業の実現」、「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」、「熱中・感動体験の充実」の3つの方策のもと、熱中！感動！夢づくり教育を推進した。児童生徒に豊かな体験と確かな学びで夢を描き志を立てる力と生き抜く自信を育むことを目指して、関係機関等と連携しながら合計83事業を実施した。

○熱中！感動！夢づくり教育の取組を市民等に周知するため、パンフレットを作成・配布した。特に、保護者向けに特化したパンフレットの作成・配布に初めて取り組んだ。また、熱中！感動！夢づくり教育を紹介するダイジェスト版動画の更新を2年ぶりに行った。

＜成果及び今後の取組等＞

○全83事業を通して、多くの児童生徒に熱中・感動体験やどの子にも分かる授業を経験してもらうことで、社会性とコミュニケーション能力や、ふるさと長岡への愛着や誇りを土台に社会に貢献できる資質・能力を育むことを支援することができた。

○熱中！感動！夢づくり教育の取組を教育関係者・保護者等にパンフレットを通じて広く周知することで、市の目指す教育について理解・関心を深めることに効果があった。今後は、熱中！感動！夢づくり教育を紹介するダイジェスト版動画DVDを市立学校へ配布し、保護者等の集まる場で活用してもらう等、さらなる周知に取り組む。

2) どの子にも分かる授業の実現（担当：学務課・学校教育課）

＜平成28年度の取組＞

○六日市地区から2小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、統合に向けた準備を行い、平成29年度末に六日市小学校と山谷沢小学校を閉校し、平成30年4月1日に岡南小学校を開校する。（学務課）

○中野俣地区から中野俣小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、統合に向けた準備を行い、平成29年度末に中野俣小学校を閉校し、平成30年4月1日に栃尾南小学校に統合する。（学務課）

○学習指導、生徒指導等の補助業務を行い、教育活動の充実を図るため、教育補助員44人を配置した。（学校教育課）

- ・小学校24校（26人）、中学校18校（18人）
- 外国語を通して、国際社会に通用する表現力やコミュニケーション力を身に付けさせるため、英語指導助手（ALT）と英語指導員（JTL）を全小・中学校に派遣した。（学校教育課）
 - ・小学校 低学年4時間、中学年4～8時間、高学年16時間
 - ・中学校 全学年2週間に1回程度
- 様々な知識・技術等を持った専門家を学校に招いて豊かな体験と学ぶ楽しさを提供するため、地域の人材や生涯学習文化課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。（学校教育課）
- 児童に体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動への興味・関心を高めるため、小学校の体育授業に専門的な知識や経験、技能をもつ指導員をアシスタント指導者として派遣した。（学校教育課）
 - ・派遣校数 わくわくコース29校、コーディネーションコース3校
- 教育センターでは、「どの子にも分かる授業の実現」に直結する教職員の人間性や専門性を高めるため、教員サポート錬成塾、研修講座、要請研修などの研修事業を実施した。（学校教育課）

<成果及び今後の取組等>

- 今後とも学校規模適正化に向けた基本的な考え方にに基づき、地域からの要望を尊重するとともに、地域関係者への十分な説明を行い、学校規模適正化を進める。（学務課）
- 学習指導や生徒指導等において特に支援が必要とされる学校に教育補助員を配置したことにより、チームティーチングや個別指導が充実し、児童生徒の学習規律の定着や学習意欲の向上にも成果が見られた。（学校教育課）
- 小学校外国語活動支援のためJTLを派遣した。特に、市内8学級を外国語活動の授業改善のためのパイロット学級とし、毎週JTLを派遣した。また、単元構想による授業を基本とし、単元開発に取り組み、その成果を年度末に「単元、いいねっか！」として冊子にし全小学校に配布した。（学校教育課）
- 「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,546人以上の指導者が教育活動に参画し、豊かで多様な体験活動を実施することが出来た。（学校教育課）
- 体育授業に専門的な知識・技能をもつアシスタント指導者を派遣することで、「運動が苦手な子も意欲を持って運動できた。」、「テンポ良く様々な運動に親しむことができた。」、「運動量が確保できた。」等の効果があった。（学校教育課）
- 教育センター研修講座には、延べ3,440人の教職員の参加があった。また、各校からの依頼に基づき204回の要請研修を実施した。研修講座、要請研修を通し、教職員の資質・指導力の向上が図られ、分かる授業の実現につながった。今後、新学習指導要領へ対応する研修講座、要請研修を行う。（学校教育課）
- 教育センター錬成塾では、錬成塾ベーシック（基礎・基本）コースに51人、

クリエイティブ（応用・発展）コースに32人の若手教職員が参加し、嘱託指導主事のマンツーマン指導の下、人間性と資質を高めた。（学校教育課）

3) 地域の力、市民の力を生かした教育の推進（担当：学校教育課）

<平成28年度の取組>

○開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位で地域連携フォーラムを実施した。また、第15回いきいき教育推進懇談会では、学校と地域が連携した取組事例の発表とグループ協議を行った。

- ・地域連携フォーラム（27 中学校区全部でそれぞれ実施）
- ・いきいき教育推進懇談会（2月13日 アオーレ長岡・アリーナ 保護者、教職員、地域連携を推進する地域住民等約400人が参加）

テーマ「実効性のある連携・協働のために！～学校・家庭・地域はどのように取り組めばよいか～」

事例発表①小国中学校区地域貢献活動「おぐにカンパニー」

②希望が丘小学校区放課後子ども教室「希望が丘あそびの城」

○地域と学校が連携して長岡の子どもたちを育てるため、地域の人材や生涯学習文化課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。

○市民力・地域力を教育に生かすため、地域の団体、NPO等が自主的に行う子どもを対象とする活動（自然体験活動、伝統文化の継承、環境美化活動、スポーツ・レクリエーション活動等）に対し、地域・子ども元氣塾事業として助成金を交付した。助成団体は、公開審査会を経て決定した。

- ・自然・科学・文化・芸術分野

2団体（申請2団体） 助成総額 369,000円

- ・スポーツ・レクリエーション分野

6団体（申請6団体） 助成総額 1,180,000円

○中学生が、市内及び近隣の高等学校、大学・専門学校、地元企業等の特色を学んで進路選択に役立てることができるよう、高等学校等が一堂に会して自校の教育や仕事内容を説明したり、実際にさまざまな体験をしたりできる「ながおかハイスクールガイダンス」を実施した。

<成果及び今後の取組等>

○地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマ・内容を設定することにより、幼・保、小・中学校の保護者・教職員及び地域の教育等関係者が参加し、連携意識を高めることができた。また、いきいき教育推進懇談会の参加者は、「2つの先進的な取組の事例発表から参考になることが多かった。」など、自校や自地域での取組に生かすよう考えを深めていた。グループ協議では、様々な立場の方々に構成したメンバーで話し合いを行い、いろいろな取組や課題について情報交換や意見交流を行うことができた。今後もこの形態を継続するなどして、長岡全体で学校・家庭・地域が連携した取組を充実させ、子ども

の健全育成と地域の活性化につなげたい。

- 「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,546人以上の地域の人材が教育活動に参画することで、地域の力や市民の力を生かした教育を推進することができた。
- 地域・子ども元気塾事業では、事業支援を目的に、子どもたちに熱中・感動体験を提供する事業であるかどうかという視点に立ち、公開審査を行った。公開審査会において申請事業の内容等を確認し、公平な審査を行うことができた。
- ながおかハイスクールガイダンスでは、アオーレ長岡を会場としたことにより、多数の中学生や保護者が参加し大好評であった。中学生等市民約2,000人が参加し、進学だけでなく、将来を見据えた進路選択の一助とするという初期の目的が達成できた。今後も、商工部、ながおか・若者・しごと機構等と連携し、高等学校に加え、大学・専門学校、地元企業等が一堂に会したブース設営を行うことで、中学生等に進学だけでなく、将来を見据えた進路について広く考えを深めることができる機会を提供したい。

4)「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実

(担当：学校教育課)

<平成28年度の取組>

- 子どもが夢中になる、感動する、夢につながる活動を充実させるために、熱中・感動体験活動（全57事業）を4つに体系化して実施した。

| | |
|--------------------|------|
| ・個性・能力を伸ばす事業 | 24事業 |
| ・感性・情操を豊かにする事業 | 9事業 |
| ・地域・自然を愛する心を育む事業 | 15事業 |
| ・社会の一員としての意識を高める事業 | 9事業 |

<成果及び今後の取組等>

- 「中学生総合文化祭ながおか夢フェスタ」を、11月12日にアオーレ長岡アリーナで開催した。発表、作品展示を合わせて15校、発表には約220人の中学生が参加した。作品展示校が増え、絵画だけではなく立体作品や絵手紙など多彩な作品が展示された。参加した中学生、保護者を含め約1,000人が来場し、文科系部活動（合唱、和太鼓、吹奏楽等）や日頃の学習の成果を知ってもらうことができた。
- 「ながおか未来塾」を、1月21日、22日にアオーレ長岡市民交流ホール及び東泉閣を会場に開催した。32人の参加があり、弁護士で元フジテレビアナウンサーの菊間千乃さん、長岡商工会議所会頭の丸山智さん、高見副市長の「志」講話や長岡市で活躍されている方を招いたワークショップを通して、志について具体的に考える研修となった。
- 「夢づくりスポーツ推進事業」では、対象を市内在住の全小・中学生に拡充し、19種目の競技において、スポーツに親しむきっかけづくりの場としての入門体験プログラムと専門性の高い指導者から高度な指導を受ける機会であ

るアカデミープログラムを設定した。各種目に延べ人数で約9,900人が参加し、幅広くスポーツに親んでもらうことができた。

- 「長岡企業から世界を学ぼう」では、中学校4校で、実際に海外で活躍している講師から実体験をもとにした話を聞く講演会を実施した。約450人の中学生が話を聞く中で、グローバル社会を生き抜く「志」について考えるよい機会となった。
- 個々の事業については、成果及び課題、参加数、参加者の声などを参考に、実施の可否を含め、目的、実施時期、内容等の見直しを行い、より一層の充実を図る。

5) 学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備（担当：教育施設課）

＜平成28年度の取組＞

- 安全・安心で快適な教育環境を整備するため、校舎及び屋内運動場の大規模改造等の工事に着手した。
 - ・上組小学校校舎増築・大規模改造工事
(平成28年度から30年度までの継続事業)
 - ・堤岡中学校校舎増築工事
(平成28年度から29年度までの継続事業)
 - ・高等総合支援学校屋内運動場建設工事
(平成28年度から29年度までの継続事業)
- 快適な教育環境を整備するため、トイレ改修工事を実施した。
 - ・表町小学校
 - ・栖吉小学校

＜成果及び今後の取組等＞

- 老朽化の進行や教室・屋内運動場が不足する学校について、大規模改造及び増築工事に着手した。また、トイレの洋式化と衛生環境の向上を図り、子どもたちの快適な利用を実現するため、トイレ改修工事を実施した。今後も適切な整備を計画的に進め、安全・安心で快適な教育環境を整備していく。

6) 通学路における児童・生徒の安全確保（担当：学校教育課）

＜平成28年度の取組＞

- 登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報を小・中学校及び関係機関に提供した。
 - ①警察・道路管理者・教育委員会・学校（地域）合同の通学路合同一斉点検の実施 全小学校区（小学校59校区）
 - ②通学路点検の実施 全中学校区（中学校27校区）
 - ③地域住民によるセーフティーパトロール団体数 59団体

④学校教育課が小・中学校、関係機関へ提供した不審者情報 21件

＜成果及び今後の取組等＞

- 通学路の合同一斉点検により、通学路のハード面の安全対策が大きく進んだ。
- 市内59小学校区でセーフティパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。

7) 食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進

(担当：学務課)

＜平成28年度の取組＞

- 教育委員会主催の食物アレルギー研修会を年3回実施した。
- 食物アレルギー対応食用給食食器を統一した基準で使用することとした。
- 学校給食における食物アレルギー対応について、栄養教職員・養護教諭・学務課職員で検討会を実施した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 今後も日常的に保護者と連携し、家庭での食事や学校給食等で新たに食物アレルギー症状が出た場合には、医師の指示や保護者との面談に基づき学校での対応を決定する。
- 引き続き、教職員を対象とした研修を行い、食物アレルギーに関する理解を深め、学校給食における誤食を防ぐ体制づくりと緊急時において迅速かつ適切な対応がとれるよう、給食の安全性向上に努めていく。

8) 子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実

(担当：学校教育課)

＜平成28年度の取組＞

- 「子どもふれあいサポート事業」において、いじめをはじめとする問題行動・不登校・児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応を実施した。
 - ①サポートチームの活動 62ケースに対応
 - ・サポートチーム会議（関係機関との連携） 34件
 - ・サポートチーム会議（要対協との連携） 28件
 - ②「子どもサポートコール」相談件数 78件
 - ③適応指導教室（「長岡フレンドリールーム」、「栃尾やまびこルーム」、「寺泊はまちゃん教室」、「おぐに日だまりルーム」）の設置及び訪問相談員の派遣
 - ④心ふれあい相談員の学校への派遣 23人34校へ派遣
- 不登校児童生徒の学校復帰を支援するため、適応指導教室の運営や訪問を実施するとともに、教育相談の充実を図った。
- 心のケアを必要とする児童生徒への適切な支援が学校全体で行われるよう、教職員の資質向上を図った。
- 各課が取り組んでいた啓発活動等を子どもの発達段階に応じて体系づけた「長岡市SNSセーフティプログラム」を作成した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場でかかわることで、明確に役割を分担し、迅速で適切な対応が取れた。今後はさらに連携を深めるため、相談機関の実務担当者による相談会を定期的に実施する。
- 適応指導教室では、児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い、児童生徒の適応を促すことができた。さらに学校との連携を深め、適応指導教室の通級や訪問相談につなげる。
- 教育センターで教育実践講座を実施し、教職員の資質向上を図った。子どもサポートカウンセラー（臨床心理士）との連携により、質の高い支援を行う。
- 今後は「長岡市SNSセーフティープログラム」をもとに、子どもと保護者への啓発活動と教職員の専門性を高める研修などを充実させていく。

9) 特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システムの充実（担当：学校教育課）

＜平成28年度の取組＞

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援を充実させるため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新增設等環境整備の充実を図った。
 - ①特別支援学級の新增設 小学校7学級、中学校1学級
 - ②総合支援学校・高等総合支援学校への介助員・作業支援員・看護師の配置
介助員22人、作業支援員9人、看護師3人、代替看護師2人
 - ③特別支援学級への介助員の配置 51校88人
 - ④通常学級への特別支援介助員の配置 20校23人
- 合理的配慮の提供の視点をもとにインクルーシブ教育システムがより充実するよう、インクルーシブ教育システムコーディネーターが市内全学校を訪問し、指導した。
- 幼・保、小・中学校が連携して保護者との合意を重視した就学相談を行うため、各中学校区に1～3人の専門相談員を依頼し、専門相談員が中心となった就学相談の充実を図った。また、関係課と連携して就学校にエレベーターの設置を決定するなどして、学校環境の整備・充実にも取り組んだ。
 - ①専門相談員の依頼 92人
 - ②就学に関する相談件数 351件（前年度301件）
- 教育、福祉、医療、労働をつなぐ拠点である総合支援室において、総合支援コーディネーター1人、専門の嘱託員2人が関係機関と連携しながら、卒業生を含めた児童生徒の生活支援・就労支援の充実を図った。また、早い段階から継続した支援が受けられるよう、学校教育課が相談窓口となり、各専門機関をつなぐ体制を整えた。

＜成果及び今後の取組等＞

- 介助員の配置や特別支援学級の新增設により、特性に応じたきめ細かな指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的生活習慣の定着や社

会性の向上等の成果が見られた。

- 市内全学校で、合理的配慮の提供に確実に取り組むことが出来た。今後、より適した合理的配慮の提供や校内体制が整備されるよう、学校訪問を通じた継続支援に努める。
- 施設面での支援を行うことで、特別支援教育の充実が図られた。また、児童生徒の教育的ニーズに応じた就学先の選定ができるよう、専門相談員による就学相談を継続していく。
- 総合支援室では、延べ1,484人からの相談に対応した。相談内容によっては、課題が複雑化したり長期化したりするケースがあるため、必要に応じ、関係機関の連携強化により一層取り組み、充実したサポートに努める。

10) 私学の振興と家庭の教育費負担軽減（担当：学務課）

<平成28年度の取組>

- 私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。また、市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。
 - ・学費助成金総額 10,768千円
 - ・運営費補助金総額 18,753千円

<成果及び今後の取組等>

- 私立高校就学者の保護者に対する経済的負担軽減や、私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

4 生涯にわたるまなびの場の充実

1) 市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備

（担当：中央公民館・中央図書館・科学博物館）

<平成28年度の取組>

- 与板歴史民俗資料館の展示に、日本初のビール醸造家の生誕地という要素を追加し、中川清兵衛展示コーナーを拡充整備した。また、馬高縄文館で縄文土器の精緻な修復を行い、展示内容の向上を図った。（科学博物館）
- 郷土資料の収集・保存に努めるとともに、貴重資料を活用したエントランス展示や美術センターでの自主企画展を行った。（中央図書館）
- 中・高生が進学や将来の職業を考えるための「中高生向け図書館しごと応援」図書コーナーの新設や、市民が課題解決に利用するオンラインデータベースの増設を行った。（中央図書館）
- 市民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興等を図るため、各種事業を行った。（中央公民館）
 - ・「公民館趣味の教室」 13講座22コース 延べ12,434人
 - ・「ゆうどきスクール」 4講座6コース 延べ1,306人

・「非日常大人スタイル」 5回連続講座 延べ 7人

＜成果及び今後の取組等＞

- 展示を拡充した効果で、与板歴史民俗資料館の入館者数が4,761人となり、対前年度比で約1.5倍に増加した。今後も、来館者の反応に目を向けながら、博物館等の設備・展示について、学習意欲の増進につながるような整備に努めていく。(科学博物館)
- 美術センターの自主企画展「写真と資料で振り返る 長岡市制施行110年のあゆみ展」では、15日間で2,552人の入場があった。また、ながおかネットミュージアムに、牧野家藩主や松岡譲の書画など14件追加した。今後も郷土資料を活用した魅力的な展示会の実施や、貴重資料のデジタル化・公開をしていく。(中央図書館)
- 中・高生が興味を持って手に取りやすい仕事に関する資料を、1か所にまとめることで、新たな利用を促すことができた。これからも、職業関連の資料の充実を努める。また、オンラインデータベースサービスの年間利用件数が244件であった。HPやチラシを活用して、課題解決に向けた図書館の便利な使い方をPRしていく。(中央図書館)
- 「公民館趣味の教室」は、高齢者が定期的に出かける場となることで孤立化・無縁化を防ぎ、かつ仲間づくりに繋がるなど、“心の健康”の場としての機能がある一方で、講師の高齢化や、参加者の固定化により新規参加がしにくいなど、講座長期化に伴う課題がある。また、「ゆうどきスクール」は、民間のカルチャースクールとの競合、受講者の減少、固定化、費用の観点から、官営で行う意義は薄いと判断し、平成28年度をもって事業廃止した。なお、一部の講座については、自主サークル化及び受講生の自主的な運営形態による期間限定講座として継続する。(中央公民館)

2) 民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備 (担当：中央図書館)

＜平成28年度の取組＞

- まちなか図書館基本構想検討ワーキングを中心市街地整備室とともに開催し、関係機関と検討を重ねた。

＜成果及び今後の取組等＞

- まちなか図書館の基本的な考え方について検討した。平成29年度は、中心市街地整備室において、「人づくり・学び・交流」をキーワードとした図書館機能を含む複合施設の導入機能について検討する。

3) 市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援 (担当：中央図書館)

＜平成28年度の取組＞

- 栃尾美術館において、「日本刀の美」や岩合光昭写真展「ネコライオン」など、社会的に関心・興味の高い内容のほか、市民参加の公募展「私のお宝アート

展」などの展覧会の開催や、気軽に美術に親しめるワークショップ「夏休み☆まいにち工作」、「とちびまつり」などのイベントを開催し、年間を通して美術館で文化芸術に関わる機会を提供した。また、中央図書館美術センターでは、自主企画展の開催や文化芸術活動の発表の場として市民への貸出を行った。

<成果及び今後の取組等>

○刀剣ブームやネコブームの盛り上がりと開催のタイミングが一致したため、マスコミにも多数取り上げられ、集客にもつながった。なかでも「ネコライオン」の観覧者数は当館歴代2位の10,103人で、平成28年度総観覧者数も18,390人（前年度比1.48倍）となり、多くの人から美術館を利用してもらうことができた。今後も引き続き、話題性があり、かつ開催することに意義のある展覧会や普及活動の企画を目指していく。

平成 29 年 8 月 17 日

長岡市教育委員会
教育長 高橋 讓 様

長岡市教育委員会事務評価委員会
委員長 結 城 和 廣
副委員長 青 柳 良 一
委 員 江 口 由 美
委 員 高 野 真 規

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

平成 28 年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検結果について、教育長並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として点検、評価を行った。

当委員会の点検、評価結果については以下のとおりである。

●全体を通しての意見

- 全体的に、きめ細かな取組が着実に行われている。改善された取組もかなりあり、ほとんどの項目において成果を挙げている。現場の声が非常に重要なので、今後も届けたい相手に、より良い支援が届いているか定期的にニーズ調査をしながら、継続した取組を進めてほしい。
- 熱中！感動！夢づくり教育や子育ての駅など、教育や子育てに向けた様々な施策が実施され、「米百俵のまち」「子育てしやすいまち」が具現化されてきている。
- これまでの取組を整理し直し、新たな視点・施策も加えて新「長岡市教育振興基本計画」を策定したこと、それに基づき、引き続き着実な取組を行っていることは高く評価できる。一方、子どもたちも、それを取り巻く環境も変化していくため、新しい課題が生じるが、感度を高く保ち、迅速かつ的確に対応できるフットワークの良さを保ち続けてほしい。
- 教員に必要十分な研修を保障することと、心身ともにより良い状態で次の授業に臨めるよう業務適正化を進めることは、教員が職責を果たすために重要である。「働き方改革」は教育の分野でも最重要課題であることから、国や県の施策による部分も大きいですが、市としての取組も漸次進めていってほしい。

●各施策についての意見

I 教育委員会の開催及び審議状況等について

教育委員会協議会を実施し、意見交換による協議内容が、各課の施策立案などに反映されていることは評価できる。また、内容もタイムリーで重要なテーマを取り上げて協議している。特に、SNS利用のリスクについて話し合いをしていることは意義がある。技術革新によって子どもたちの生活環境も日々変化していることから、教育委員会として先手の対応が求められるため、引き続き専門家を交えた協議をしてほしい。

また、教育委員が参加する施設訪問では、授業参観や職員懇談、給食試食等が実施され、開かれた教育委員会として、学び・行動する教育委員の姿が認められる。

透明性の確保については、定例会会議録等の情報を公開するなど、努力がなされているが、一方、教育委員会定例会・臨時会は年間を通じて傍聴する人がいなかった。議事内容によっては、事前に広報する、関係しそうな市民に働きかけるなどをして、事後の広報では知り得ないことを目の当たりにする機会を提供してほしい。

Ⅱ 教育委員会における事務の点検・評価について

1 郷土愛の醸成による人材の育成

郷土長岡を学ぶ教育活動の推進については、冊子「ながおか学」の活用が十分図られており、各校が実践している有効な活用方法を全小学校に紹介するなど情報の共有もされているため評価できる。また、学校毎に工夫を凝らした視点で「長岡」についての学習を進め、実践の積み重ねで指導内容や方法の深まりが出てきており、保護者や地域、NPOとの連携、さらに教員の様々なアイディアで、子どもたちが主体的に学習できる工夫が随所に見られる。加えて、発信活動にまでつなげて授業を展開している点も評価できる。

米百俵の精神の普及については、冊子・読本・DVD等の教材をわかりやすく充実した内容で作成しており、評価できる。また、それらの活用を図るような様々な働きかけをして成果を上げている。

大英博物館での火焰土器の展示や各種交流は、長岡の歴史、文化の発信に役立つ事業であり、積極的な情報発信に努めているところは評価できる。また、記念グッズの作成など、若い人にも興味を持ってもらう工夫も好ましい。今後の展開としては、発信力のある人にアドバイザーになってもらう、他団体とコラボレーションするなど、よりPRできるように連携を強化してほしい。

郷土民俗芸能公演会等の実施は、文化的遺産の継承として、意義があると考えられる。今後は、より積極的なアピールを望む。

科学博物館の特別展や講演会の開催は、科学博物館がより身近に感じられるきっかけとなっており、子どもたちに豊かな自然・歴史・文化に触れる機会を提供している。

子どもたちへの平和意識の醸成を目的とした小中学校での平和学習の広がりや深化には目を見はるものがある。リリックホール等を会場に成果発表を行う学校も複数あり、家族や地域住民も子どもたちの発表に感銘を受けている。

2 子ども・子育て支援の充実

妊娠期から出産、子育て期と切れ目のない支援が行われており、乳幼児や妊産婦への支援が充実してきている。育児休業中の母親には、子どもとの時間をより楽しく充実させたいという思いがあるので、より良い情報提供や「ままナビ」のような学びの場の活用がさらに進むよう期待する。

特別な支援が必要な子どもや家庭への支援施策として、こども発達相談室、家庭児童相談室の運営等、相談対応の体制が充実している。また、発達障害に関する理解と支援のための研修会に、自分の子に特別な支援が必要か否かを問わず、広く保護者に参加を呼び掛けたことは意義がある。社会において、障害への正しい知識を持たないことが最初のバリアになっているので、今後も広く保護者に周知する取組を継続してほしい。また、各種援助費の拡大や保育料軽

減により、保護者の経済的な負担の軽減が図られたことは、子どもの貧困対策につながっており、今後も充実を望む。

子育てをしながら仕事もするというライフスタイルが一般的になっている中、子育て支援環境も様々な角度から成長段階を追って整えられてきている。たとえば、企業への出前子育て講座は、普段忙しくこのような講座に参加できない（しない）人にとっては、改めて子育てを考えるきっかけとなる取組であり、今後も継続及び更なる充実を望む。

子育て支援員の認定研修会が実施され、新たな支援員が認定されたことにより、園児の受け入れ増加が図られたことは評価できる。引き続き、フォローアップ研修等を通じて、支援員の定着や資質の向上に努めてほしい。

保育サービスにおいては、各種特別保育の実施により、多様化する保育ニーズへの対応がなされている。また、保育士の確保は保育定員増加の大きな要素であることから、一層の充実した対応が望まれる。

児童クラブは、充実した運営がなされており評価できる。特に平成28年度から開始された開設時間の延長については、保護者から「助かっている」という声を多く聞いている。今後も、利用時間等の分析をして、より良い環境を提供してほしい。しかし、一定の評価ができる一方、制度上は小学校6年生までの預かりが可能となっているが、学年が上がるにつれて、過ごしやすい場所でないように感じる。ただ事故なく過ごさせるというだけでなく、活動やその状況などについて、ゆるやかなPDCAの流れが働き、質的にも改善されていくことが必要だと思われる。また、子どもたちにとって、児童館や放課後子ども教室が、これまで以上に地域の大人たちとの交流の場として行きたくなる場所になることを期待する。

地域全体で子育てを支援する体制づくりとして、「子育ての駅」が、地域の偏りなく全地域に開設し、「子育ての駅運営委員会」や子育ての駅サポーターのほか、地域で活動している方々の協力を得ながら市民参加型で設置、運営できたことは評価できる。今後は、「子育ての駅」の充実とともに、親子サークルの活動の活性化など、地域での子育てを充実させるための取組をさらに継続してほしい。

また、小学校就学前の幼稚園や保育園での教育と、小学校の教育方法が異なることから困惑している保護者の声が多く聞かれるため、家庭教育への支援として、子どもとの関わり方だけでなく、小学校の教育方法や教職員との付き合い方などを事前に学べる取組があると良い。

子育てに関する各種セミナーや講座の開催においては、「親も育つ子育てセミナー」や「NPプログラム講座」など人気の高いものを分析し、その特徴やニーズを捉えた講座企画などの支援の継続を望む。また、これから親になる世代へのいのちの大切さや喜び等を伝える施策として定着してきた「次代の親育成

事業」は、子ども達が将来、良き親となるための有効な事業であり、評価できる。

3 質の高い教育の推進

質の高い教育を実現するためには、教員の質を上げることが欠かせない。教員の義務である研修の場を多様に用意し、丁寧に育てるシステムが働いていることは評価できる。また、全国学力・学習調査の結果が示すものは、学力の全てではないが、調査結果の分析を基にして、各学校が改善を図っていける方向を具体的に、積極的に示していく必要があると考える。

平成28年度は、熱中！感動！夢づくり教育等のアイディアに富んだパンフレットを配布するなどして広報に力を入れ、市民の認知度が上がり理解が深まった。

体育授業へのアシスタント指導者派遣事業は、意義のある取組である。健康な体づくりのためには、体を動かすことの楽しさを子どもたちから体験することが有効である。特に運動に苦手意識のある子どもにとっては、少しでも楽しい要素がある授業となるよう指導内容への工夫を望む。

また、「ながおかハイスクールガイダンス」はその成果を評価できる。内容に活気があり、進路選択や高校の教育活動の理解につながっている。

子どもたちの熱中・感動体験の充実を目的とした施策として、「中学校総合文化祭ながおか夢フェスタ」、「ながおか未来塾」、「夢づくりスポーツ推進事業」など多様な授業が展開されており効果を上げている。また、「ながおか未来塾」の内容は大変充実している。各中学校の代表だけでなく、講演会だけでも広く参加できるよう開催してほしい。

安全・安心で快適な教育環境の整備として、校舎等の大規模改修やトイレ改修などに努めている。今後は、授業中の熱中症予防のためにも早期の冷房設備の充実が必要である。

さらに、通学路における児童・生徒の安全確保のために実施されている通学路の合同一斉点検は大変重要である。今後は、点検結果を子どもたちにどのように周知させるか工夫が必要である。

いじめをはじめとする問題は、複雑かつ緊急の対応が必要である。それを逸すると、重大な結果を招く。「子どもふれあいサポート事業」の充実により生徒指導上の多様な問題に積極的に対応する体制が整えられ、丁寧な取組がなされている。関係する人や組織を、素早く的確に結んでいくサポートチームが機能していると思われ、評価できる。「未然防止、早期発見、即時対応」の視点を大切にした質の高い対応がなされている。

特別な支援を要する子どもへの支援体制として、介助員や特別支援介助員が各学校に配置され、人的支援の充実が図られている。今後も一層の充実を望む。

また、インクルーシブ教育システムコーディネーターの派遣は、非常に有効である。外部の専門家からの指導・指摘は新たな視点を獲得の機会になり、担当教員にとっては、普通学級の担任や上司など関係者への橋渡し役を果たしている。コーディネーターの負担は大きいですが、指導主事と連携をとりながら、今後もソフト面、ハード面あわせての支援を望む。

4 生涯にわたるまなびの場の充実

生涯学習の充実については、教育振興基本計画にもあるように、まちなかキャンパスや図書館、博物館、中央公民館などの各施設の連携が重要である。歴史民俗資料館などでは、展示コーナーの拡大・充実や企画展の工夫・充実が図られているが、さらにそれぞれの施設の特色を生かした取組を進め、市民ニーズを捉えたまなびの場の創造を望む。

また、高齢者の人口が増加する一方であることを考えると、生涯学習が果たす役割は今後ますます大きくなることが予想される。市民主体、民間活力の取り入れなどの構想の下に、事業が進められていることを評価する。

新たなまちなか図書館の整備については、図書離れが続く中、新たな機能の導入や他の施設との複合化を検討していくことは時機を得ている。民間の発想や経営手腕を導入することにも期待が持てるが、何より公的サービスの充実が欠かせないと考える。

文化芸術に関わる機会の提供として、栃尾美術館の企画展は充実している。「ネコライオン」などは、知名度が高く人を引き付け入館者数も圧倒的であることは頷けるが、常にそのような企画ができるとは限らないため、企画段階、実施段階で大学生や高校生をはじめ発想豊かな市民力を導入し、創造性があり魅力的な企画展等の実施を望む。

用語の解説

【小規模保育施設（B型）】18 ページ

0歳児から2歳児までを預かる、定員19人以下の小規模な保育施設。「小規模保育施設（A型）」の職員配置がすべて有資格保育士であるのに対して、「小規模保育施設（B型）」は必要な職員配置のうち1/2が無資格の保育補助者で良い。ただし、長岡市においては、無資格の保育補助者に対して「子育て支援員研修」の受講を促し、保育の質の確保に努めている。

【NPプログラム】21 ページ

NP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラムは、「完璧な親なんていない」というメッセージのもとに作られた、カナダ生まれの親支援プログラムで、保護者同士の交流をベースとしたグループワーク方式の連続講座。

【コーディネーション】24 ページ

脳と身体の協応性をあげ、潜在的能力に働きかけることにより、運動を学習する時に、より早く学習できるようにするための「学ぶ力」を得るトレーニングのこと。

【インクルーシブ教育システム】（包容する教育制度）29 ページ

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。